

2019年6月号へのご意見

カリマネに取り組む糸口が見えた

カリキュラム・マネジメントに取り組まなければならないとは分かっていたが、どのような切り口で、どのように取り組めばよいのか、悩んでいた。6月号の特集を読み、カリキュラム・マネジメント推進にあたっての具体的なヒントをいくつも得ることができた。まずは、学校の現状を分析し、学校教育目標の設定から始めたい。

兵庫県 匿名希望

柱となる課題を見つけたい

6月号の特集は、カリキュラム・マネジメントをどのように進めればよいのかを考えさせられた記事だった。学校内で柱になる課題を1つでも立てられれば、そこから先はいろいろなやり方や取り組みを検討できると感じた。

三重県立いなべ総合学園高校 郡 正樹

カリマネで大切なのは教師が変わること

6月号の特集を読み、私たち教師が変わることが大切なのだと痛切に感じた。関西大学の森朋子教授が「ワークショップを終えて」で言われた「カリキュラム・マネジメントは、社会変革への先生方の挑戦」という言葉が、心に響いた。

栃木県立真岡北陵高校 阿久津 功

教育に今日的な課題を取り入れる迅速性が必要

6月号の『『学校教育デザイン』を描く道標』で取り上げられた佐賀県立佐賀西高校は、2015年に掲げられ

たSDGsという今日的な課題を、探究学習の軸として迅速に自校の教育活動に取り入れていた点が素晴らしいと思った。本校では、全校朝礼の話題としてSDGsを取り上げたことがあるので、同校の方法を参考にして、SDGsを本校のカリキュラムに生かしていきたい。

鹿児島県 匿名希望

幼稚園の自由遊びに「学び」の本来の姿を見た

6月号の「高校教師 study-tour」で取り上げられた幼稚園の自由遊びについての記事は、「学び」の本質について改めて考える機会となった。何かに「没頭する」こと、そして「童心」に帰って純粋な気持ちで目の前の課題に取り組むことに、「学び」の本来の姿があるのかもしれないと思った。ルーブリックに代表される「学習成果」として測ることのできない「学び」を忘れてはならないと痛感した。

滋賀県立草津東高校 堀 浩司

若手時代の苦い経験が成長の糧に

6月号の「教師を育てた言葉たち」の記事で、新潟県立長岡高校の山崎健太先生が前任校で同僚の教師から受けたアドバイスが衝撃的で、その言葉に救われたという体験談は、新鮮な内容だった。そうした若い時の経験は、ともすれば独り善がりに陥りやすい教師にとっても大切なものだった。

長野県 匿名希望

お詫びと訂正

『VIEW21』高校版2019年度6月号「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」で掲載をいたしました、福岡県・私立福岡女学院中学校・高校の柿原寿人先生のプロフィールの中に、下記の誤りがございました。

〈対象ページ〉

『VIEW21』高校版2019年度6月号p.45中段・柿原先生プロフィール2行目

(正) 凛として花一輪プロジェクトリーダー

(誤) 凛として花輪プロジェクトリーダー

製作段階で柿原先生から上記修正のご指摘をいただいていたにもかかわらず、編集部がそのご指摘を見落とし、修正をせずに発刊してしまいました。柿原先生、学校関係者の皆様、そして読者の皆様大変ご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。再発防止策を徹底して参りますので、今後とも、ご指導のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

『VIEW21』高校版編集部

VIEW21 高校版 2019 10 月号

次号は10月15日発行(予定)

『VIEW21』高校版は年6回の発行です